

# 岡山県立玉野光南高等学校 いじめ防止基本方針

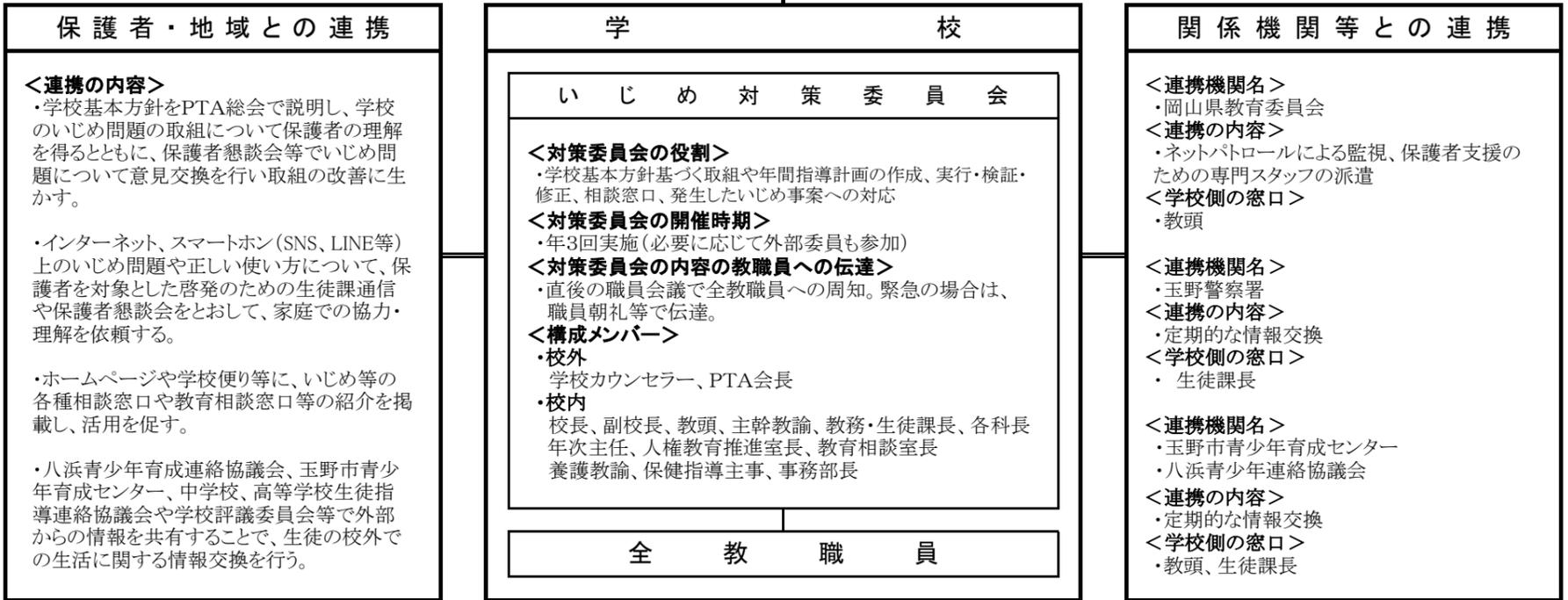
平成26年4月 策定

## いじめに関する現状と課題

・昨年度(25年度)いじめ早期発見の目的で、生活実態調査を6月と12月に2回実施した。その結果いじめに該当する案件は発覚しなかった。しかし、年度当初ネット上に他人の写真勝手に掲載するなど、人権を無視する行動が見られた。また、日常生活では、継続的なものではないが、人の物を盗ったり、隠したりといったいやがらせも発生した。  
・今後は、携帯電話・スマートフォンの正しい使用の仕方を学校と家庭で確認し、ネット上でのトラブルを防止していく。また、日常生活では身だしなみや言動から生徒の変化に気づき、個々に対応したり、要所要所で注意喚起を促し、未然に問題行動を防いでいくことが必要だと感じている。

## いじめ問題への対策の基本的な考え方

・いじめ対策委員会は、学校の教育活動全体を通じて行うものとし、それぞれの立場から実効のないいじめ問題解決のための取組を行う。また、いじめの早期発見のために、生徒へ生活実態調査を行い、いじめの疑いがある事案があった場合には、迅速に各指導・支援体制を組み組織的に対応する。  
・SNSの利用状況等を把握し、その結果をもとに、校内研修、講演会等、生徒や保護者への啓発活動や情報モラルの向上を図り、いじめの未然防止に努める。  
・生徒が主体的にいじめの防止についての取組を企画立案し、実施することでいじめの未然防止への意識を深める。  
**<重点となる取組>**  
・いじめ(SNS・ネット上)についての認識を深めるため、いじめの認知力(早期発見)、事案発生時の対応能力(早期対応)の向上のための職員研修を実施する。  
・「いじめについて考える週間」と生活実態調査を実施し早期発見に努め、事案があれば対応する。また、人権LHR等でいじめ問題について生徒の主体的な活動を進めるとともに



## 学校が実施する取組

① いじめの防止	<b>(教員研修)</b> ・いじめに関する教職員研修を実施することで教職員の資質向上を図る。 <b>(人権意識LHR、講演会)</b> ・いじめに関する講演会等を行い、生徒の生命尊重の態度や人権意識や自己指導能力の育成を図る。 <b>(生徒会活動)</b> ・文化祭でのいじめ撲滅キャンペーンの実施。最大の学校行事を利用し、いじめ防止への意識を高める。・生活委員による呼びかけを実施し、生徒自らいじめ防止に対する意識を高めていく。 <b>(情報共有)</b> ・登校時の指導、昼休みの見回りを実施し、身だしなみなどから生徒の変化に気づき早期に対応する。 ・中学校・高等学校生徒指導連絡協議会で情報交換を行う。・学年会議等では必ず生徒情報の共有化を図り、日頃から生徒が示す気になる変化や危険なサインを見逃さず日常生活の様子を十分把握する教職員の意識を高めておく。気になるで生徒がいる場合は、関係職員が本人へ声かけを行う。 <b>(情報モラル教育)</b> ・携帯安全教室の実施。外部講師に依頼し、携帯電話・スマートフォンの正しい使用方法を理解させネット上のトラブルを防止する。
② 早期発見	<b>(実態把握)</b> ・生活実態調査を6月と12月に2回行い、いじめや日常生活でのトラブルを早期に発見する。県のネットパトロールでネット上の問題行動を早期に把握する。 ・面接週間や保護者懇談会等を定期的に行い、生徒や保護者からいじめの通報を受けたり、相談したりする機会を設ける ・日頃の学校生活や生徒指導(登下校指導、交通指導)等で生徒が示すささいな変化や危険なサインの発見に努める。 <b>(情報共有)</b> ・生徒の気になる変化やささいな情報でも、担任、学年・生徒課・部活動顧問・保健室、教育相談等関係機関に連絡し、常に情報交換を行う ・学校カウンセラー、教育相談室、保健室からの情報は早急に関係機関へ周知し、情報交換を行う。 <b>(校内の相談機関の活用)</b> ・教育相談室の開放日時や月1回の学校カウンセラーの相談日を保護者や生徒に継続的に周知し、気軽に相談できる体制を整える。 <b>(校外の相談機関の周知)</b> ・学校外の相談窓口として県青少年総合相談センター、県総合教育センター等に設置している面談・電話・Eメールによる相談窓口について生徒や保護者に周知を継続して行う。
③ いじめへの対応	<b>(いじめの発見、相談への対応)</b> ・本人や保護者からいじめの相談や訴えがあった場合はもちろん、いじめと疑われる行為を発見した場合、早急に関係者が関係生徒や保護者から事実確認を行う。 <b>(組織対応と関係機関の連携)</b> ・いじめ対策委員会を中心として各指導・支援体制を組み、対応の組織化を図る。 ・暴力や金銭を要求するいじめなど犯罪行為として扱われる場合は警察に報告し連携を図る。 <b>(いじめられた生徒と保護者への支援)</b> ・いじめを受けた生徒からの聴取を行うとともに、学校生活を安心して送れるように居場所の確保する。また、家庭訪問での保護者へ迅速かつ確実な情報や学校側の今後の対応等について保護者と情報の共有を行う。状況に応じて専門家の協力を得ながら、きめ細かい対応を行う。 <b>(いじめた生徒への指導、保護者への助言)</b> ・いじめた生徒から聴取を行い、その時の気持ちや状況なども聞き、その背景にも目を向けながらも自らの行為を振り返らせる指導を行う。背景に学校へのストレスや家庭環境に要因がある場合はいじめの背景にある要因を取り除き心の安定を図る。必要なら外部の専門家や機関の協力を得る。いじめの事実が発見された場合は、「いじめは決して許さない」という毅然とした姿勢を示し、再発防止の措置をとる。また、保護者へ迅速かつ正確な情報を伝え、事実に対して保護者の理解や納得を促し、以後の対応を適切に行えるよう協力を求めるとともに保護者に対して継続的な助言を行う。いじめの解消後も継続的な観察を行い、適宜必要な指導を継続的に行う。